

工廠の組織と施設

豊川海軍工廠は開庁時にすべての施設が完成したわけではなく、計画段階では昭和19(1944)年3月を完成期目標としていました。開庁時には第一機銃工場など一部の施設が完成したのみで、その後順次施設が建設されていきました。昭和16(1941)年には新たに光学部設置のため東に隣接する用地を買収し規模を拡大させ、昭和18(1943)年に全施設が完成しました。工廠の敷地は工場部分だけで約60万坪あり、周囲は塙と堀に囲まれ、入り口は正門・北門・西門・北東門などに限られていました。敷地内は碁盤の目のように91の区画に区分され、その中に整然と工場が配置されました。



光学部・指揮兵器部事務所付近

この写真は、光学部調整工場から西方の光学部事務所、指揮兵器部事務所方面を撮影したもので、空襲前の工廠の姿を写したもので、最も施設などがよく分かるものです。



工廠施設遠景

昭和15(1940)年冬に、工廠の南方より撮影したという写真。写っている建物が少ないため、開庁間もない頃の様子と思われます。



豊川海軍工廠の空中写真

米軍が昭和19(1944)年11月23日に偵察のため撮影した写真



豊川海軍工廠平面図

豊川海軍工廠の組織は、機銃・火工・光学・指揮兵器・器材の5つの造修部と総務・会計・医務の計8つの部からなりました。

○機銃部

開庁と同時に設置された造修部で、航空機や艦船が搭載する機銃を生産していました。

○火工部

開庁と同時に設置された造修部で、機銃が使用する弾薬包や信管などを生産していました。

○光学部

昭和16(1941)年12月15日に設置された造修部で、双眼鏡や測距儀などの光学兵器を生産していました。

○指揮兵器部

昭和18(1943)年9月1日に設置された造修部で、艦船で使用する射撃装置などを生産していました。

○器材部

昭和19(1944)年4月15日に設置された造修部で、各造修部で使用する工具等の造修や機銃の部品の鋳造・鍛造などを行いました。

○総務部

各部所掌事務の統一、廠内の保安、人事及び一般教育、工員の募集など工廠の総務に関することを行いました。

○会計部

会計、給与、契約、材料物品の貯蔵及び供給に関することを行いました。

○医務部

工廠の衛生や従業員の診療・身体検査などを行いました。

体験者の証言

先ず最初、矩形約六十万坪の内に機銃部と火工部の地割をした。敷地の南端から約五分の一の処に一本の大通りを通し、……